令和６年度

# 地域プロデューサー実践講座

## プロジェクト一覧

地域づくりプロデューサー実践講座を通して
受講生たちが企画したプロジェクトや
踏み出した報告書をご紹介します!

### 私が取り組むテーマ

お名前@活動地域（公開可の方のみ）

### 私が感じる地域の課題

### 私が目指す理想の状況

first 私が踏み出す最初の一歩

next 次の一歩

### 難しかったこと

### 踏み出した結果.見えてきたこと

## 「地域」×「エンタメ」

伊牟田　孝弘さん@日置市

**課題**

あるのに、ない。
●地域コミュニティ：近くにいるのに繋がれてない
●地域資源　：活用できる場や施設、自然や文化はあるのに、知られていない。使われていない。

**理想**

「フィクション」を「現実」に実装する。
物語のような出来事を街の中に生み出して、楽しい体験のある街を作りたい。

**first**

やりたいことを言葉にする。軸を作る。
企画書を作る。仲間を作る。

**next**

着実なプロジェクトの実現

どこを起点として自分がやっていくか。
仲間をどう作るか。

自分の軸が見えてきた。

## TOORINIWA（シェア店舗）の改修と事業化、PORT（ホットドッグ）の事業化

酒井　良さん@霧島市

**課題**

昼に歩いて巡り楽しめるコンテンツの不足、
チャレンジする人が実践する場が少ないこと。

**理想**

散歩している時に顔馴染みもちょっと顔を合わせたことがある人も、何気ない挨拶が交わされる。
食やハンドメイド作品などを通して地域内循環が生まれ、国分から霧島、鹿児島の人やコトに繋がるきっかけが生まれる。

**first**

自家製ソーセージの開発と提供。
DIYイベントを通した地域に開く場作り。

**next**

事業化に向けた事業計画の検討と、ホットドッグのレシピ開発など。

本業がある中での時間をつくることや覚悟を決めて事業を実践すること。

食への意識が高い方が多いこと
（ソーセージは添加物が多いから子供に食べさせるのに気が引けるなど）

## みんなあつまれ！ごちゃまぜたこやきプロジェクト

尾野　真衣子さん@薩摩川内市

**課題**

住民主体の健康づくり『はんとけん体操』は住民の健康や地域づくりに繋がっている大切な活動である。
この活動が継続、発展していけるように、『たこやき』を通して、楽しそう、参加したい、と思ってもらえるような多世代交流や、新たな関係性の発見などに繋げたい。

**理想**

たこやきは、これなら地域でできそうな活動として取り組み、年齢や性別、障がいの有無など関係なくごちゃまぜの空間で、みんなでわいわいしながら関係作りを行い、すべての人が安心して地域で生活できる未来にしたい。

**first**

高齢者のサロンと子ども食堂で、たこやきを実践した

**next**

たこやきは楽しいだけでなく、健康の視点から"栄養"や"旬"、"特産品"等も考え、その場所らしいたこやきを作っていきたい。

鹿児島県で、たこやきが受け入れられるかどうか

たこやきという言葉だけでみんなが笑顔になること。
気が付くと、それぞれが役割を持ってたこやきに取り組んでいること。
そして、またやりたいという気持ちになること。
これ以上ない、地域づくりの手段だということに気が付いた。
これから、元気な地域をどんどん作っていきたい。

## 「人」と「情報」が集まる社会教育士のいる「クリエイティブサードプレイスいちき串木野」

田口　雅孝さん@いちき串木野市

**課題**

個人でのボランティア活動やリサーチを重ねる中で、課題に合わせて事業を展開すること、自己紹介をきちんとし、実績を重ねていける拠点作りの必要性を感じた。
学びを通じて、人づくり･つながりづくり･地域づくりに中核的な役割をはたす社会教育士を取得し活動していければと思った。

**理想**

多くのまちの課題をあらためて確認するとともに、その解決に取り組む人たちと触れ合う機会を得られたことから、私もその一員となれるように、これから自分の時間や予算を使っていきたい。

**first**

絵本読み聞かせサークル活動をはじめた。
メンバーとの拠点として、
自宅を改装した「クリエイティブサードプレイスいちき串木野」の運営をはじめた。

**next**

・「たぐっちゃん家（チ）の木曜しゅくだいカフェ」を2025年4月に予定。
・「キッズクリエイタースクールいちき串木野」の開校を2025年9月に予定。

事業自体は、自分でどうにかできそうだが、仕事として行うのではなく、ボランティア活動は、対立を生みやすいと感じたこと。

人の心はコントロールできないので、嫌う人をどうにかするのではなく、応援してくれる人や、事業対象者に時間やお金を使うべきだと思った。

## 協力隊同期と共に自分達の得意分野を活かした合同会社「and 湧水」を設立！

門之園 祐子さん@湧水町

**課題**

賃貸が少ないためアパートが1Rにも関わらず55,000円と都会と変わらない金額にされている。
移住したい人は多くても家がないため、移住ができないと言われて近隣に流れてしまう。

**理想**

現在湧水町は、自然消滅自治体の若年女性人口減少率が県内でワースト1位となってしまった。自分達の会社が頑張って行政と一緒に住みたくなるまちづくりをし、ワースト1位から脱却したい。

**first**

会社の場所探し。

**next**

会社の場所づくり。

途中までDIYしていた拠点が急遽使えなくなってしまい、一から場所を探さなくてはいけなくなったこと。

人生山あり谷ありだけど、めげずに頑張っていたら協力してくれる人達が力を貸してくれること。自分達は行政のサポートが手厚いので、これからも恩を返せるように町のために頑張りたい。

## 任意団体 風と土「つながり 育ち合う 地域の第三の居場所づくり」

瀬口 康平さん@霧島市

**課題**

・子どもたちの学びの機会と、安心して人や社会と繋がることができる居場所の保障。
・地域コミュニティの希薄化による、地域住民の出番や役割の減少が生む孤立。
・住民の「自治」という感覚の低下による、行政等への消費者的な依存体質。
当事者として地域課題に向き合い、より良い社会をともに創るという感覚と意識を取り戻すこと。

**理想**

「誰もが自由に自分らしく幸せに暮らせる社会」を創ること。
社会の写し鏡である子どもたちの幸福と最善を問い続け、行動できる社会に。また、誰かを「自己責任」と追い詰めるのではなく、本来の共感・Compassion（人の悲しみや苦しみを分かち持ち自分事にすること）が働き、人と人がつながり、違いを認め合い、支え合える、やさしい地域社会を目指したい。

**first**

「不登校の親の会」と「居場所づくり」を個人ではじめたことが最初の一歩。子どもや保護者の安心できる居場所がなく、その一助になればとの想いで活動を開始した。
その後、霧島市主催の「リノベーションスクール@隼人」に参画したことで、地域の空き家を賃貸契約するに至り、人や地域をつなぐ開かれた居場所として活用している。

**next**

さらに地域に開かれた居場所となれるよう、フライヤーの作成配布、地域住民に向けた説明会等を行い、理解や共感をいただけるよう活動をしていく。また、地域の「寄り合い」的な場を開き、地域の方との親交を深め、地域をより良く知る活動を展開したい。

「不登校」という課題と向き合って行動する中で、最も壁として感じたものは教育行政との連携だった。子どもたちの「今」を幸せにするために、垣根を越えて、官民で協力しあえる関係性を築きたい。

共感し、協力し、支え合える仲間が沢山いてくれたこと。そして、社会は大きな強いものがつくるものではなく、私たち自身が社会の主体として、社会をより良いものに変化させる力を持っているということ。

## 小規模住居型児童養育事業/ファミリーホーム「米重さん家（げー）」開所について

米重 花子さん@鹿屋市

**課題**

ファミリーホームを「きっかけ」に、特定技能実習生＝外国にルーツを持つ地域住民へのサポートを「仕事として＝生業として」行いたい…と願った出来事があった。
ボランティアではなくて、生業にしたいと願った。
地域に暮らす住民同士の支え合いの中にも、専門家としての視点と技術を投入することで、超過疎地・少子高齢化が著しい社会であっても、その様な厳しい環境下だからこそ出来る道（改善策の1つ）を見つけたい。

**理想**

弱きものが手を取り合って生きて行く社会像を「美しい国·日本」と捉えられるだろうか？、同様に「楽しい国·日本」と捉えられるのか？、という日本人のマインドが試されていく時代において、「日本ファースト」や「（自分の地域だけさえよければよい）〇〇ファースト」とは違う時代。

**first**

小規模住居型児童養育事業/ファミリーホーム「米重さん家（げー）」を開所した。

**next**

オーガニック給食が鹿屋市でも実施できるように、行政に働きかけたい。
自宅前の農地では一等地である広い場所が休耕田になっているので、有機野菜を作り、子ども食堂に提供できるようにしたい。

関係団体からの「アンチコール」
職員から「もうクラファンは諦めたら…」と提案された時、本気で困っていた。

応援は、背中を押してくれる。
応援は、結構意外な所からも来る。私の場合は、マスメディアの応援が本当に大きく、新聞やテレビ、ラジオに大変お世話になった。
クラファンの支援者たちや、オフラインで友達や受講生の支援も大変に助けてもらった。ありがとうございました。

## 種子島たからつむぎプロジェクト

樗木 真理さん@西之表市

**課題**

現在、種子島は馬毛島基地建設の影響で、観光客減少や雇用環境の変化、一次産業衰退などの深刻な問題に直面している。また、屋久島空港の滑走路拡張により、今後さらなる種子島離れが進むことが予想される。こうした状況の中で、種子島の観光は未だに観光地巡りが主で、「また来たい」に繋がる人の出会いが整備されていない。また、島全体で協力して未来を考えることが難しい現状がある。

**理想**

地域の人が主役となり、様々な人や事業者が協力し合い、島内外に新たなつながりや交流を生み出し、かつ地域経済の循環を促進する手段として、着地型観光事業をはじめる。事業を通じて、観光地巡りが主である種子島の観光を、訪れる方々が「また来たい」と思えるような人との繋がりを生む旅へと進化させることで、地域に新たなチャレンジが生まれ、経済的な循環が起こる仕組みづくりを行っていきたい。

**first**

「種子島を忘れられた島にしない」をキーワードに、種子島のガイドやインタビューライターとして様々な人や事業者と関係性を築くと同時に、地域の未来を担う「想いある人」たちと垣根を超えた対話の場づくりを行なった。

**next**

地域の人が主役となり、様々な人や事業者が協力し合い、島内外に新たなつながりや交流を生み出し、かつ地域経済の循環を促進する手段として、着地型観光事業をはじめ、観光地巡りが主である種子島の観光業を、訪れる方々が「また来たい」と思えるような人と人との繋がりを生む旅づくりへと進化させ、地域に新たなチャレンジが生まれ、経済的な循環が起こる仕組みづくりを行っていきたい。

同じ想いを持った人と繋がること、そしてその繋がりを活かして自身は何を軸に事業を行っていくべきか、想いを言語化して形にするまでに時間がかかった。また、ボランティアで自身を消費しすぎず、しっかり対価を得られる形にして行くにはどうすればいいのか、経営の知見を持った考え方ができずに点の行動ばかりになったこと。

お金を得る以上に、事業や活動を行うことで地域にどのような影響が与えられるのか、地域がどう変わるのか、その未来を描くことの方がまず大事であり、その上で、想いや構想を言語化できれば、行政の方や事業者の方など、共創関係を創りやすいと感じた。また、言語化を進める中で自分自身がやりたいことも明確になり、自信を持ってプレゼンできると感じた。

## 言葉に障害や壁がある人たちが地域に向けて思いを語る音声配信サービス

鮫島　悠子さん@鹿児島市

**課題**

脳卒中の後遺症である失語症や構音障害、高次脳機能障害への認知度が低く、そのようなコミュニケーション障害者は病院を退院後、社会参加できないケースが多い。また、在日外国人は増えているが地域のコミュニティに参加している人は少なく、互いに無関心な状態である。その他、吃音、発達障害、難聴者（特に高齢者）なども含め、言葉に壁や障害を感じている人は地域での交流が少なく家に引きこもりがちである。

**理想**

言葉にハンディがある人もない人も、
互いに顔を知っていて、すれ違えば笑顔で会釈をし、
何かあれば軽く会話を交わす緩いつながりのある町。

**first**

在日10年目の外国人に今の生活や背景を語ってもらい、Podcastにて音声配信を行った。30分ほどのセッションで、一人で子育てをする不安や、行政のサービスが充実していることで助けられていることなどが語られた。

**next**

在日外国人、失語症者、構音障害者、高次脳機能障害者、吃音のある人、難聴者（主に高齢者）など、さまざまな言葉にハンディを感じて地域に出て行けない人と話をし、地域に届けたい。

セッションでお互いに緊張してしまい、本当に伝えたいことや思いを引き出せていない。

周りには協力してくれる人、耳を傾けてくれる人、同じように考えている人、興味を持ってくれる人がたくさんいるということにとても勇気づけられた。また、無理のないペースを見つけ、とにかく継続することが大切だと感じた。

## NPO法人パレット＆キャンバスが取り組む、地域の支える力を引き出すプロデュース事業 ～外部支援力と相互支援力の活用～

島田　麻也子さん@霧島市

**課題**

「制度対象外要支援児童の存在」と「人材・連携不足」

**理想**

児童自身も自己理解を深め強みを伸ばし、課題達成を意識して日常を送ることができる「こどもたちの理解者・安全基地が保証される地域の居場所」と、学校・保育園・学童等の支援者的立場の方々が相談や支援を得て知識・技能を向上させていくことが可能となる「抱え込みを防止する支援者支援」集団に困難さを抱える児童の支援が出来るよう過去・現在・未来に亘り子どもたちの育ちを支える「縦横連携」

**first**

学童では珍しく児童発達支援管理責任者、心理師等の専門家を配置し、また、施設利用のない地域のこどもたちへ食堂・交流会等の実施や障害児通所支援事業のR7年度開所準備といった「様々なこどもの居場所作り」を行った。鹿大、福祉事業所、社協、包括との協働活動や座談会を実施し、こどもたちの成育環境改善への継続的な連携が生まれた。

**next**

「不登校のこどもの日常的・常設的な居場所作り」や「学校・療育・学童等の縦横連携の仕組み作り」は、既存制度では網羅できていない福祉のため、活動資金を得るための助成金獲得や、様々な団体・個人との協働・連携の必要がある。それを達成するため、取組に共感を得て、協働連携による解決で生まれる社会的影響について多くの団体・個人に届くよう提案力を磨く必要がある。

課題が深刻すぎる内容で共感者を得にくい内容になりがちだと気づいた。「楽しそう」、「何かできそう」、「関わりたい」、「続けたい」、「深く知りたい」と回を重ねるごとに当事者、自分事目線が無理なく得られるようなステップを用意できたら良いと感じた。また、連携出来そうな相手先との擦り合わせが難しくニーズ把握や具体的選択肢をある程度持った上で進めていく形にした方が良かった。

継続的な連携を作ろうと踏み出してみて、
・連携先のニーズを把握して一致する部分を探る
・過去事例や実績を踏まえて不安を解消する
・関わるメンバーの情報を得る
・それらを叶えられる場や適材適所の役割を準備する
・表層的な連携も、課題解決に繋がる連携へと時間をかけて深化させる
等が、体験してみてわかった。

## 高齢者や障害を持つ方の生活を豊かにする取り組み

門田　良子さん@鹿屋市

**課題**

鹿児島県は全国に比べても高齢化が進行し、また、地方になるほど交通機関不足、独居の高齢者が増えていて、介護をする近親者がいない、協力をしてくれる人がいない、外出するための交通手段が少ない等の課題がある。

**理想**

高齢者や障害を持つ方が、自分のやりたいことをあきらめずに
自分の特技を活かし、生きがいを持って生活することで、
元気な高齢者や障害者が増える。

**first**

生活での困りごとを解決するとともに、外出や旅行に行くことで生活に楽しみを持って過ごしていただくことを支援する手段として福祉タクシーの開業を検討した。

**next**

福祉タクシーの営業に必要な二種免許取得のため、自動車学校へ入校予約をし、福祉タクシー業を実行している方から情報収集した。
地域内でのコネクション作りと、福祉タクシー以外での地域活性化のため、活動を予定している地域の地域おこし協力隊に応募した。

自動車学校に入校制限があり、まだ入校できていない。
地域内にコネクションがないため、開業してすぐに運営していくことが困難であることが想定された。
地域おこし協力隊には採用されなかった。

地域おこし協力隊には採用されなかったが、解決が必要な課題とのことで活動予定地より福祉タクシーの開業をサポートをしていただけることとなった。
まずは、関係機関と話をする機会を調整していただけることとなった。
今回講座に参加したことで、より具体的な課題解決の方法と実際に実践するための基盤作りができたと感じる。

## 地域が元気になる「女性が住みたくなるまちづくり ～オリーブを核にしたまちづくり～」

瀬平　秀人さん@日置市

**課題**

【鹿児島県・日置市の課題】
人口減少による地域活力の低下
【湯田地区の課題】
・昔栄えた温泉施設等が寂れてきている
・温泉で栄えた街が空き店舗だらけになっている
・個人経営の事業所の経営者が高齢化し、後継者になる者が育っていない

**理想**

オリーブを核にしたまちづくりが展開され、女性が活躍し、人口減が止まる地域。
例えば、
○湯之元駅の副駅名を「湯田オリーブ駅」に。駅前に、足湯、手湯を。
○湯之元駅前通りにオリーブの並木道を。
○空き店舗を活用した女性経営者が起業。
○地域外から人々を呼び込める仮称「ポパイ&オリーブフェスティバル」の開催
○観光ルート「ひおきオリーブ街道」の開発等

**first**

湯田地区公民館に勤務。
業務の傍ら地域の「元気の素」、「元気な人」を探した。
○「元気の素」
・古い街並みを貫く用水路
・様々な温泉と昔温泉町で栄えた商店街の空き店舗等
・台地に広がるオリーブ畑と鹿児島オリーブ株等
○「元気な人」
・アジサイ園を一般公開されているご夫婦
・全国から集まる将棋大会を開催している棋宮司．
地域を元気付ける音楽イベントを開催したバンドマン等々

**next**

地域が元気になる「女性が住みたくなるまちづくり～
オリーブを核にしたまちづくり　～」を実現するための仲間づくり。
「（仮称）ポパイ&オリーブプロジェクト推進隊」（POP）を立ち上げる予定。

目標に対するプロジェクトが多く、焦点を絞れなかったこと。
他の講座参加者は明確なプロジェクトを持っていたが、「地域が元気になる」を目標としている私のプロジェクトに対してはもう少し焦点を絞るべきとのアドバイスがあったため、「女性が住みたくなるまちづくり～　オリーブを核にしたまちづくり　～」を基本理念に具体的に取り組めるプロジェクトから取り組むことにした。

地域には「元気の素」がいっぱいあり、「元気な人」がいっぱいいる。地域の元気を引き出すためには、これらの「元気」を入れる器=仲間の集まりが必要と考える。この「仲間の集まり」からさらなる「元気」を生み出していきたい。

## 出張じぶんのおとじかん

徳留　将樹さん@鹿児島市

**課題**

自分の事業の中での課題は、じぶんのおとじかんというワークショップの持続可能性に心身の限界を感じていた。

**理想**

出張で、いろんな地域に顔を出して、覚えてもらって、その地域でのライブにつながったり、制作のお話につながればいいなと思っている。

**first**

2/25に名山町めいざんちにて、じぶんのおとじかんを価格設定、アンケート集計した形で実施した。

**next**

3/23：鹿児島市西陵、よりどり
4/12：霧島市隼人、風と土
出張じぶんのおとじかんを開催予定

自分のライフバランスの問題で現地参加率が低く参加者とあまり交流できなかったこと。

自分の取組を定期的に開催できる距離間、人間関係の大切さ。

## 体験型子ども食堂の企画

野下　昂平さん@鹿児島市

**課題**

家庭でもない学校でもない、心を落ち着けることができるもう一つの『居場所』が必要

**理想**

心を落ち着けることができる、第三の居場所が広がっていくこと。

**first**

子ども食堂の企画。ただし、全てを一人で行うのではなく、運営は協力してもらいながら行う。

**next**

子ども食堂に限らず、無理のない範囲で、誰かの居場所づくりに取り組んでいきたい。

何に取り組んでいくのかが決まらなかったこと。受講生の皆様が、様々な取り組みを行なっていて、良い刺激を受けつつも、それがプレッシャーになっていた。

周りに頼ること。一人で全てをやろうとすると、何から手をつけてたらいいか分からず、なかなか一歩を踏み出せないが、周りに頼ること、助けてもらうことで、一歩踏み出すハードルを下げることができる。

## 鹿児島市に、「オルタナティブ（サード）プレイス」をオープンする

川原　隆せさん@鹿児島市

**課題**

資金不足

**理想**

- 子どもたちが 「やりたいことをやりたいときにやりたいようにやりたいだけできる」場所をつくる。
- 不登校・発達に特性のある子どもたち、学校に馴染めない子が安心して過ごせる場所を提供する。
- 教育・福祉・地域がつながる拠点として機能し、多様な大人や地域住民が関わる場になる。
- 「学び」だけでなく、遊び・文化・スポーツ・ものづくり・アウトドアなど、興味を広げる環境を整える。
- 「おとな、こども、障害」関係ない場所として、インクルーシブなコミュニティを形成する。

**first**

資金調達
- クラウドファンディングの実施（理念に共感する支援者を募る）
- スポンサー・協力者の開拓（企業・団体とのパートナーシップ）
- 収益事業の強化（カフェ・物販などの事業展開で安定した収入源を確保）

**next**

- 施設の物件確保と改修計画の具体化
- 地域とのネットワーク強化（行政・他団体・学校・福祉関係者など）
- スタッフ・ボランティアの確保と育成
- 運営資金の見通しを立て、事業計画をブラッシュアップ

- 資金調達のハードルが高い（特に初期投資）
- 不登校・特性のある子どもたちに対する社会的理解の不足
- 学校・行政との連携の難しさ（公教育との違いを理解してもらう必要がある）
- 持続可能な運営モデルの確立（収益事業と支援のバランス）

資金調達には「共感を生むストーリー」と「実現可能なプラン」が不可欠で、多くの人が「居場所づくり」に関心を持っているが、実際の運営には課題が多く、自治体・地域との連携を強化することで、支援の幅を広げることができる。
教育だけでなく、福祉や地域コミュニティの要素を組み合わせることで、持続可能なモデルになり得ることから、まずは小さくスタートし、ニーズを把握しながら段階的に拡大していくことが重要と感じた。

## ・焼酎で地域おこしと地域間交流
## ・耕作放棄地と放棄された果樹を減らしたい

兒玉　修宏さん@伊佐市など

**課題**

伊佐市は良い所だが、個々の魅力で観光客を引き込むだけの力が足りない様に感じる。焼酎１つを見ても黒伊佐錦の並んでいない酒屋・コンビニはなく、農産物でもネギやカボチャは鹿児島を代表する品と言えるので、それぞれの良い点が合わさり、隣接地域の良い点が合わさればとても良いと思っている。

**理想**

地域を元気にするために、農家だけでなく地域に住む人達の所得が増えて、誰もがWin Winの関係になること。
そうすれば必然的に地域に移り住む人も増え、耕作放棄地や放棄される果樹も減ると思う。

**first**

先ずは農協や自動車代理店、商工会議所や地域おこし協力隊、市役所の観光課などといった伊佐市内での協力者やアドバイス・指導いただける方を探した。この講座で知り合った方々の取組に参加させて頂き、活動のヒントを得た。

**next**

伊佐市には別名『焼酎神社』と呼ばれる郡山八幡神社があり、日本最古の焼酎の文字が書いてある落書きが見つかったのが別名が付いた由来。この神社と地元伊佐の焼酎を売り込むこと、また、他県になるが隣町の熊本県人吉市と地域間交流が出来ないかを考えている。

私は生まれも育ちも鹿児島ではなく、後から伊佐市に来たので近隣の集落の方々とも深い付き合いが少なく、意見を聞いてアドバイス・指導して下さる方が居なかった。
何処から手をつけて良いかも分からない日々だったが、この講座で一歩を踏み出すヒントを得る事が出来た。

どんなに能力や才能があっても個人で出来る事には限界があるように感じた。今回の講座で県内の各地で色々な取組をされておられる方々（受講生、受講生の先輩達、講師の先生方々など）が居る事を知り、新聞やマスコミで取り上げられる様な凄い取組をされているので、この講座に関わる方々にお力添えを頂くのが必須だと痛感した。

## 「体験格差」をなくす子ども向けの企画運営

佐藤　誉士さん@湧水町

**課題**

「体験格差」、住んでいる地域によって子どもたちが触れる体験に大きな格差が生まれている現状。

**理想**

企画を通じて、様々な目線で自分の育った町を知り、好きになってほしい。

**first**

実行委員会の設置

**next**

事業計画書の策定

**仲間づくり**

大きなことを思いつくが、
目の前の一歩一歩を確実に進めることの大切さ。

## 小さなチャレンジとゆるやかなコミュニティが育つまちなかへ　～ご機嫌な暮らしは自分たちの手でつくる～

宮之原　優聖さん@霧島市

**課題**

商店街エリアは人口増や街路事業とともに縮小し駐車場が増え、大規模小売店やマンションに変わる等そのエリアの価値が変わろうとしている。この波には抗えないが、日常の中で顔見知りの関係をつくれるまちなかを創造していく方に寄り添いたい。

**理想**

縮退する地方でご機嫌に幸せに暮らしているまちなか。いろんな地域を視察させていただいたが、各地域によって独自の課題がある中で、何かをやりたいと思っている人が一歩踏み出せる環境、それを応援する人たちがいる状況を作れることが理想に繋がりそうな気がする。

**first**

R6年度からTOORINIWAという商いと暮らしをブレンドするシェア店舗の運営に向けて、改装ワークショップをしている。ワークショップ中に周辺で暮らす通りかかる人たちや通り会の方々が、何ができるの？という会話や進捗を見にきていただける状況が生まれていることが嬉しかもしれない。

**next**

理想の未来に向かって、周囲で動いているプロジェクトと連動しながら、新たなまちなかの価値を伝えていくこと。徒歩5分以内のエリアに、コワーキング、シェアハウス、ゲストハウス、シェア店舗、サウナ、クラフトビールなど今までの商店街にはない業態の店舗が揃いつつある。協働、共有、対話などを軸にしつつその他店舗と連携しながらまちなか全体の価値を上げる活動に繋げていきたい。

一緒にプロジェクトに取り組む人。
一緒に取り組む人や応援してくれる人がいるからこそ地域での活動に一歩踏み出すことができると思う。
その人が周りにいないと地域には飛び込めなかったと思う。

覚悟のようなものは、始める時も続ける際にも源に感じる。何故やりたいのか自分と向き合う時間は苦ではあるが、メンターの方々との壁撃ちや同じく動いている方々からの共感やエールは励みになる！
何故やるのかという場面がいくつもあるので、悩んだ時に立ち返る手書き資料や、参加者からのコメントなど本当にありがたい。

## 限界集落から元気集落へ！野間池活性化大作戦

森　明子さん@南さつま市

**課題**

結婚を機に移住したが、子育て世代の仲間も少なく定住しない。小学校も児童数減少で特認校誘致しているが、PTA活動だけでは限界がある。港町だが、セリが無く魚が買えない。観光客が来ても、宿泊施設がなく、観光の目玉がない。町全体が悲壮感に溢れ諦めムードである。

**理想**

笠沙の豊かな自然は、地域の宝である。
その魅力ある海･山･空の豊富な資源に光をあて、4世代が集う地域おこしのイベントを行い、市内外から多くの方々にお越し頂き、笠沙の魅力を広くPRし、子育て世代、漁業の担い手の定住につなげ、笠沙を輝げる町にしたい。

**first**

地区公民館の情報共有を強化し、アンケートの結果を南さつま市と連携。公民館だよりの内容や講座の改善を実施。百貨店勤務経験を活かし指導者を発掘。公民館をサイクルステーションに登録し休憩スポット化。地域運動会に警察の協力を得て移動交番を開設。小学校跡地の体育館やグラウンドを活用し、スポーツを通じた地域と小中学校の交流を促進。人口300人の町で4世代150人が集まる場を創出。

**next**

市が補助金を活用し、野間池みなと広場の再整備を実施。施設のリニューアル、フリースペースキッチンやキャンプ場を整備し、水産物の自動販売機を設置するので、公民館主事として地域活性化を支援し、地域おこし協力隊員を誘致。地域住民と新たな仲間が協力し、野間池漁港を中心に活性化を目指す。

住民自身も地域の魅力に自信を持てず、若者が移住する悪循環が続いた。笠沙小の特認校化も遠距離通学の壁により機能せず、PTA活動も住民の協力が得られず限界を感じた。消防団員も減少し、負担が一部の人に集中する状況が続いている。

約2年の御用聞きを通じて地域住民との信頼関係を築き、公民館講座の幅が広がった。対話を重ねる中で、住民が笠沙を愛していることを実感。タカエビ漁の事業継承が成功し、若い漁業者が増加。水産業の未来に明るい兆しが見え、ワンチーム笠沙として地域活性化に向けた動きを加速させたい。

## 伊佐の暮らしを体感するゲストハウスと交流拠点づくり

田中　久美子さん@伊佐市

**課題**

･通過型観光地のため滞在時間が短く、観光客数に対して地域経済への影響が小さい
･体験メニューが少なく、観光地を訪れる以外に地域の良さを感じる機会が少ない
･「人」こそ最大の魅力だと感じているが、地域の方と交流できる場が少ない

**理想**

･伊佐を訪れ、環境の豊かさや人の温かさを感じ、何度も足を運ぶ人や移住者が増える。
･外からの目線で語られる伊佐の素晴らしさを、地域の人が見聞きできる機会が増える。
･先人たちが築き上げた「伊佐の暮らし」が、誰も無理することなく持続していく

**first**

ゲストハウスづくりが始まり、改修ワークショップを3回実施し、コミュニティ大工の力を借りながら市内外の方の協力のもと場づくりが進んでいる。
また、地域の方にも利用しやすい場所としての雰囲気づくりのために、ご近所さん向け見学日「ご近所さんデー」や、放置柿を活用した柿酢づくりのワークショップを開催した。

**next**

全3回の改修ワークショップは、延べ人数１００名の方が参加しているが、伊佐市内の方の参加は多くない。ご近所さんデーを定期的に行い、伊佐市内の方にもどんなことをしているのか気軽に見学できる機会を増やしていこうと思う。
改修作業はできなくても、様子を気軽に見てもらえるように動いていく。

わからないことがわからない状態で、何から手をつけたら良いのかがわからなかった。
協力隊という立場のおかげで、県内各所の様々な取り組みや研修に参加をすることや、事例を学んだり、人を知ることができたことで一歩を踏み出せたと思う。

困っていたら、手を差し伸べてくれる方がたくさんいることに気づかされた。私が勝手に始めたプロジェクトだが、応援したり見守ってくれたり、実際に関わってくださる方が思った以上にたくさんいて、自分一人では何一つ形にできなかったけれど、鹿児島には小さなチャレンジを応援してくれる風土が息づいているんだと感じた。

## 香りをアートに
## ～廃棄されるものを輝かせる～

Kさん

課題

いちき串木野市特産品の「サワーポメロ」の知名度をあげる為、365日香りを用いてサワーポメロを想像し、旬の時期に果実購入に繋がればと思っている。

理想

廃棄されるものをキラキラ輝いたものに形を変え生産者さんの応援をしたい。

first

最初の一歩として目には見えない香りをアートで表現したいと、個展を開催した。

next

更に一歩踏み出し.かごしまデザインフェア2025に参加し.このような場で廃棄されるものの活用方法として私の取組を伝えていきたいと思っている。

自分のイメージのに合う開催会場·ギャラリー探し、目には見えない香りをどのように表現するのか、お越しくださったお客様にどのように楽しんでいただけるか、背景に生産者さんの感謝の気持ちも込めての表現方法が難しかった。

廃棄されるものにも手段として有効活用できるものがある。
「廃棄」に対しては興味は人それぞれで、視覚で傷が入った原材料でも嗅覚に変化し無駄なものはないことが見えてきた。

## 地域貢献活動委員会の活性化
## 受動的活動からの脱却

Nさん

課題

人財不足が挙げられる。
同じ方が複数の係やいくつかに所属して個人負担が大きいため、特に田舎のほうが地域コミュニティが崩壊している要因と考えている。

理想

今行っている小学校単位での組織と活動に集約して、補助金などを統制すること。

first

コロナ禍で社会が変わり、通常と思われる活動が出来なくなり、自主的な活動やスタッフを増やすことが重要と考え、地域のために病院はどうあるべきか、新たな活動を探っている段階。

next

地域の方々の繋がりの機会を増やすこと

高い理想をうたっても、目標や活動につながらず、自分たちでできることは何かを問う作業が難しかった。

思い込みをなくして、対話を続けることが大事なことと感じた。

## 住み続けたい町「対話」

Mさん

課題

地域には様々な社会的課題があるが、世代間でギャップなく共有できる手段が不足している。

理想

世代間の知恵と経験が融合するコミュニティを目指す。多世代が地域の歴史や文化を語り、交流する場を設け、地域の伝統などが継承される。高齢者と若者の相互学習が進み、孤立防止と新たな技術習得のきっかけになるメンター制度の実施。多世代が協働し、地域課題の解決に取り組む。

first

住民が自由に意見を交わせる「夜カフェ」を月1回開催し、オープンな対話の場を創出。

next

デジタルと回覧板を活用し、地域内外の交流と自主的な参加を促進。

従来の会議利用スタイルに慣れていた地域住民にとって、関心が薄く、利用者が少なかった。しかし季節を活かした様々な自由なイベントを通して、新たな参加のきっかけを創出。今後、自走運営していくための様々な準備が必要とされている。

「夜カフェ」は世代を超える対話の温かな灯火となり、地域内外の方々、それぞれの想いを語る場が生まれた。地域の"ボス"が共感をもって関わることで、住民の積極的な関与が引き出され、トップダウンではなく"共に創る"地域づくりが動き出している。

## 空き家について話し合う
## ワークショップの開催

Sさん

課題

空き家は沢山あるが、活用されないまま放置されている現状があった。関係人口や移住に繋がる機会を増やす意味でも、まずは空き家所有者の方の空き家管理意識を促す必要があると感じた。そこで空き家に興味を持ってもらえるようワークショップの開催を企画した。

理想

地域の住んでいる人達自身が、自主的に地域づくりに取り組む仕組みになるのが理想。

first

開催地の選定は、現在、市が施行している空き家バンクの改修費用等の補助率が高い地区に対象をしぼった。理由は、開催した地域の空き家が少しでも空き家バンクの登録に繋がる機会になるのではと思ったため。

next

ワークショップ開催の検討について
開催候補地の各自治会長へ声掛けを行った。

ワークショップ開催以外で、地域の人達との交流が正直出来ていなかった。地域の人達との間に入ることが難しい。イベント等に参加する事はもちろんだが、それ以外で交流出来る機会を作るにはどうしたら良いかがわからなかった。
また、ワークショップを開催した後、その地区が自主的に動けるようなフィードバックはどの様にしたら良いかが難しい。

·年度末までに開催する段取りだった事もあり、場所や日程決定に時間を要し、参加者の声掛けに十分時間を割く事が出来なかったが、予定以上の参加者が集まり、賑わいがあった。
·まずは、空き家について意識して貰う事を目的としていた為、空き家について意見交換することは出来たが、活用候補物件をいくつかピックアップして話すと、より具体的な話し合いが出来たのでは、と思った。

## オンライン×オフラインのハイブリッド型地域のサードプレイス

Kさん

**課題**

都市部ではコミュニティの希薄化という話もあるが、奄美大島は、今もシマという集落文化が色濃く残っており、逆に地域のコミュニティが強い状況。一方で、誰からも強制されない、目的交流型のサードプレイスが不足している。
既存の奄美在住者の新たな場、移住検討者の入口となるような場が必要。

**理想**

それぞれの想いや目的を持って集まってくる人たちとの交流を通して、働き方・生き方の多様性が広がり、地域に新しい知見が入ってきて経済活動も活発になり、寛容性が生まれることで自分らしい暮らしを楽しむ人が増えている状態。

**first**

移住経験者の想いや体験の発信。
移住検討者への機会の提供。

**next**

地元出身者を巻き込んだオンライン上でのコミュニティの強化。

移住検討者にとってはオンラインコミュニティがあることのメリットは感じやすいが、奄美在住者、とくに奄美出身者がコミュニティに関わるメリットの創出が難しかった。

移住経験者としてのリアルな想いを発信することで、普段から移住者と関わることの多い奄美出身者にとっては興味を持ってもらえるきっかけとなった。

## 子ども向け自然体験学習事業

Uさん

**課題**

地域の風景と子どもの生活が結びついていない。子ども達は、周囲を見渡せば自然豊かな環境で暮らしているが、実際に山や川、田んぼなど、自然に入る機会が少なく、自然の一部であることを実感できていない。

**理想**

子どもたちが、自身も自然の一部であることを認識し自然と共生している。
自然豊かないわゆる「地方」で暮らす醍醐味をしっかり実感し、実益を持って暮らしが成立している地域。

**first**

事業アイデアをまとめ、事業プランを立てる。

**next**

計画により、協力者を募る。

事業実施に係る時間の確保、協力人材及び協力フィールドの調達に係る謝金の工面

事業を行う以上、ボランティアベースからビジネスにしていくことを念頭にやっていきたい。また、自身が取り組む事業が結果として、地域の活性化に繋がるものにしていきたいと思うようになった。そのためには、協力者の無償の支援に甘えず、必要なところにはきっちり対価を支払うことが、今後の事業継続及び地域の活性化にとって必要だと思う。

## 鹿児島市に「青少年が自己肯定感に溢れ、お母さんが太陽になれる天賦多彩の学び場」シンプルギフテッド・フリースクールを作る！

Kさん

**課題**

- 青少年の自己肯定感の低下
- 不登校、引きこもり、精病、コミュニケーション障害の増加、低年齢化
- 家庭内の子育て、親子関係の問題
- 相談できないで抱え込む保護者が多い

**理想**

○青少年が天賦の才能(ギフテッド）を活かして、自分らしく開花し、社会へ羽ばたく未来（心、算数、芸術、経済などの学び場、子ども社長育成）
○母親、保護者が家庭で太陽のように笑顔で生きる未来（カルチャースクール、カウンセリング）
○青少年と地域が共尊共生できる未来（勉強会、講演会、子供食堂）

**first**

○不登校相談室の開設
○新屋敷にて、さんすう・数学教室の開校

**next**

○関連する公共施設などへの訪問、情報交換
○勉強会、講演会の定期的な開催
○動画配信による広報
○さんすう・数学教室の無料体験会

○資金の準備
○理解者や応援者は増えるが、意見やアイディア、企画立案をする人が少ない
○現在の勤務体制から、踏み出すための時間が取りにくい

定期的にメンターから指導を受け、メンバーから刺激も受けることで、視野が広がり新しい可能性も見えた。また、連携できそうなアイデアも現れ、一人ではないのだと分かった。
社会へ同じような危機感を持ち、それぞれのアプローチで活動する仲間が多いことも励みになった。机上の空論ではなく地に足のついた活動へ導いていただき、感謝している。

令和６年度地域づくり人財育成事業
『地域プロデューサー実践講座』

主催：鹿児島県
運営：一般社団法人横川kito


＜お問い合せ＞
鹿児島県　男女共同参画局　くらし共生協働課
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町10-1
TEL：099-286-2247
E-MAIL：k-chiiki@pref.kagoshima.lg.jp